

令和6年度 地域障害児支援体制充実のためのICT化推進事業
障害児支援分野のICT導入モデル事業 実績報告

自治体名

神奈川県

【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジン サユリカイ		
法人名	社会福祉法人 小百合会		
フリガナ	シトウハツタツシエンセンター アグネスエン		
事業所名	児童発達支援センター アグネス園		
提供サービス(複数のサービスを提供している場合は、主たる1つのみ選択)			
児童発達支援			
職員数(常勤換算数)【「従業者1ヶ月の勤務延時間」/「事業所等が定めている、常勤の従業者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、退職は除く)】			
30.0 人			
参考情報: 令和元年度から令和5年度に係るICT導入モデル事業補助実績(複数回補助を受けている場合、補助年度は直近を選択)			
(補助実績)		(補助年度)	

【申請に当たっての確認事項】 ※記載内容を確認し、チェックすること。

- こども家庭庁からの求めがあった場合は、ICT機器等導入の効果分析やモデル事例の公表等に対応する。
- 導入経費の算定に当たっては、複数の業者から見積書を徴している。
- 「福祉・介護職員処遇改善加算」を算定しているか、あるいは交付申請後おおむね3ヶ月以内に取得見込である。
- ICT機器等導入によって得られた生産性向上による業務効率化及び職員の業務負担軽減により超過勤務手当等の経費に金銭的剰余が出た場合には、当該費用を利用者が受ける障害福祉サービスの質の向上や職員の賃金改善に資する取組に適切に使用するとともに、その旨を職員等に周知した。
- (該当する場合に、チェックしてください。)
- 同一敷地内に障害者を支援する施設・事業所と障害児を支援する施設・事業所が併設されている場合、障害児を支援する施設・事業所に係るICT機器導入の費用のみ計上した(費用を按分した)。

1. 経費計画

(1)国庫補助対象経費の実支出額	1,292,700 円
※実際要した費用の総額を記載	
(2)国庫補助基本額	1,000,000 円
※上限100万円【1(1)が100万円以下の場合は、1(1)の金額を記入】	
(3)国庫補助所要額	500,000 円
※【1(2)×1/2にて算出(千円未満切捨)】	

(4) 主な導入機器内容(複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> パソコン	<input type="checkbox"/> スマートフォン
<input checked="" type="checkbox"/> タブレット	<input type="checkbox"/> インカム

<input type="checkbox"/> ソフトウェア(事業所での業務を支援するソフトウェア(記録業務、情報共有業務、請求業務)で、各種業務を一気通貫で行うことが可能なものに限る。)
<input type="checkbox"/> ソフトウェア(バックオフィス業務のためのソフトウェア(勤怠管理、シフト表作成、人事、給与などの業務)で、各種業務を一気通貫で行うことが可能なものに限る。)



<点線内の機器等の導入に際し、必要な場合のみチェックすること>

- 通信環境機器等(Wi-Fiルーターなど)
- 保守経費等(クラウドサービス、保守・サポート費、導入設定、導入研修、セキュリティ対策など)
- その他(キーボード)

2. 事業実績

(1) ICTの導入を実施した分野(特に該当するもの1つに☑)

- 作業の迅速化に係る取組(現場や外出先での入力支援、支援記録の作成など)
- 情報の共有化に係る取組(職員間の情報の伝達など)
- 業務の統合化に係る取組(勤怠管理、シフト表作成、人事・給与業務など)
- その他

(2) 事業所が抱える課題

連絡帳アプリは職員室のパソコンからログインして確認している。保護者からの連絡をリアルタイムで確認できるように、園児の欠席・遅刻・送迎車の変更等の連絡を各支援室にて保育士が連絡帳アプリを見ることができるといい。家庭訪問の記録は、園に戻ってから取り組んでおり、職員の時間的負担になっている。パソコンの台数に限りがあり、順番に書類作成をしていた。研修の資料は全てプリントアウトしていたので、紙の消費量がかさんでいた。また、職員間で共有したい書類はPDFにスキャンし共有ファイルに入れたりメールに添付して送信していた。

(3) ICT機器等を導入した業務内容(概要)

iPadminiを導入し、支援室でもコードモアプリを確認できるようにした。キーボード付きタブレットを家庭訪問等の訪問先に持参することで、支援記録の入力をその場で行い時間短縮になる。新入職員に、使用してもらえるパソコンの準備ができた。研修資料をダウンロードしてiPadでみることで用紙の削減につながった。共有したい書類は、写真に撮ってメールで送ったり、USBで送信できるようになった。

(4)ICT機器等導入前の定量的指標及びICT機器等導入により想定される定量的指標

① 前記2(3)に係る現在(ICT機器等導入前)の業務時間内訳

業務内容	業務従事者数	発生件数		C.1件当たりの平均処理時間	年間業務時間 D(B×C)	1人あたり業務時間 (D÷業務従事者数)
		A.ひと月当たり	B.年間発生件数 (A×12)			
支援記録の作成	26人	718件	8,616件	15分	2,154時間	83時間
連絡帳アプリのチェック	26人	660件	7,920件	10分	1,320時間	51時間
書類作成	16人	70件	840件	30分	420時間	26時間
書類の共有	14人	8件	96件	5分	8時間	1時間
		1,456件	17,472件	60分	3,902時間	160時間

② ICT機器等導入後の前記2(3)に係る想定業務時間内訳

業務内容	業務従事者数	発生件数		C.1件当たりの平均処理時間	年間業務時間 D(B×C)	1人あたり業務時間 (D÷業務従事者数)
		A.ひと月当たり	B.年間発生件数 (A×12)			
支援記録の作成	26人	718件	8,616件	11分	1,580時間	61時間
連絡帳アプリのチェック	26人	660件	7,920件	2分	264時間	10時間
書類作成	16人	70件	840件	20分	280時間	18時間
書類の共有	14人	8件	96件	3分	5時間	0時間
		1,456件	17,472件	36分	2,128時間	89時間

年間業務時間数想定削減率(%)

45.5%

※作成文書量は該当する文書がある場合に限り入力すること。

③ 前記2(3)に係る現在(ICT機器等の導入前)の作成文書量

作成文書	作成文書量	
	A.ひと月当たり	B.年間作成文書量
		0ページ
		0ページ
		0ページ
	0ページ	0ページ

④ ICT機器等導入後の前記2(3)に係る想定作成文書量

作成文書	作成文書量	
	A.ひと月当たり	B.年間作成文書量
		0ページ
		0ページ
		0ページ
	0ページ	0ページ

年間作成文書量想定削減率(%)

#DIV/0!

(5) 想定削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

今までは常勤職員数に合わせたパソコン台数しか準備できていなかったが、3台のパソコンと6台のi-padmini、3台のi-pad(キーボード付き)の導入により、書類や連絡帳アプリの記入に携わることができる職員が増え、業務効率化につながった。